

続「殉職警察官之碑（森元巡查殉職碑）」について

大滝会特別会員 鹿摩貞男

(万世大路研究会)

「殉職警察官之碑(森元巡查殉職碑)について」(平成26年3月)は、先に公表しているところであるが、慰霊碑建立に関してこの度新たな資料を見つけたので、前回報文の続編として報告するものである。

はじめに

別件で福島県歴史資料館において古文書を渉猟中に、偶然森元巡查の「殉職警察官之碑」(以下、「慰霊碑」と略称)に関する文書「福島県巡查 故森元源吾君 建碑費寄附芳名簿」(旧中野村役場文書)を見つけた。これには、昭和35年〔1960年〕9月に、旧中野村字石小屋地内の森元巡查遭難現場近くに建立された慰霊碑の建設に際し、寄附を募るための趣意書と寄附協力者名が記載されているものである。本稿ではこれらを中心に紹介する。

設置された慰霊碑には、遭難に至る経緯と森元巡查の経歴等を紹介した碑文が刻まれているが、設立の経緯や寄附協力者の名称等はなく現在まで分らなかったものである。

なお、今回掲載の慰霊碑関連の写真については、新たに撮り直したものを掲載している(一部を除く)。これは、今年(令和2年)の1月19日(日)に新沢橋から二ツ小屋隧道まで旧国道(万世大路)を歩いた際に撮影したものである。今冬は異常な暖冬で、新沢橋付近ではほとんど積雪がなく、遭難現場付近でも多いところでせいぜい15cm程度である。森元巡查遭難時(明治21年1月5日)には2m近い積雪があったと伝えられており、当時の状況を偲ぶのは難しいが、冬季の雰囲気だけはあるだろう。

今回撮り直した写真をも含め、森元巡查遭難現場(慰霊碑)の位置関係等を示した【参考写真】及び【参考図】を巻末に一括掲載したので予めおことわりしておきます。

また、森元源吾巡查遭難の詳細な経緯については、前回の報文(平成26年3月)を参照していただきたい。

<https://ootaki.xsrv.jp/morimotohi.html>

本稿では、後に簡単に概要を記す。

1. 「建碑費寄附芳名簿」について

見つけた文書の表紙には「福島県巡查 故森元源吾君 建碑費寄附芳名簿」と墨書されている(写真-1①)。

(写真-1①) →



福島県巡查 故森元源吾君建碑費寄附芳名簿(資料番号91番)
目録第30巻 旧中野村役場文書(その1)
(福島県歴史資料館所蔵)

趣意書には下記の通り記載されている(体裁等原文通り)。この中には日付が記載されていないけれども、慰霊碑が建立されたのは昭和35年9月26日となっているので、準備期間もあると思うが文書は昭和35年中に作成されたものと考えたい(写真-1②)。

【趣意書原文】

趣意書

福島県四等巡查

飯坂警察分署

二ツ小屋巡查駐在所勤務

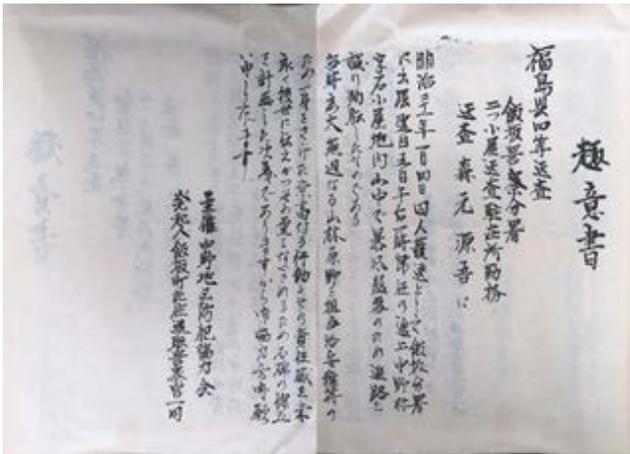
巡查森元源吾は

明治二十一年一月四日囚人護送として飯坂分署に出張翌日五日午後一時帰任の途上中野村字石小屋地内山中で暴風猛雪のため進路を誤り殉職したものである。

当時広大無辺なる山林原野を担当治安維持のため一身をささげた崇高なる行動とその責任感を末永く後世に伝えかつその霊をなぐさめるため石碑の建立を計画した次第でありますから御協力方御願ひ申し上げます

中野地区防犯協力会

発起人飯坂町在住退職警察官一同



(写真-1②) 趣意書

続いて下記の寄附協力者名が記載されている（掲載順）。

〔寄附協力者名〕

- 飯坂町在住退職警察官一同
- 飯坂警察署員一同
- 飯坂警察署長
- 中野地区防犯協力会
- 丸中白土株式会社
- 大滝木炭組合
- 円部木炭組合
- 杉ノ平木炭組合
- 中野鉦山
- 中野農業協同組合
- 長老沢鉦山
- 東宝木材

（合計 12 団体個人、寄附総額 16,500 円、太字筆者）

2. 寄附協力者について

寄附協力者のうちの幾つかについて関連事項を含めて若干の解説を付して紹介しておきたい。

大滝木炭組合

大滝木炭組合が慰霊碑建立に協力していることは当然であろうということで、その名前を見つけた時に驚きはしなかったけれども感銘を受けたことも確かである。むろん、木炭組合と森元巡査遭難が直接関係あるわけではないが、大滝集落と森元巡査遭難に関しては浅からぬ因縁があるように思われるからである。

森元巡査が遭難した旧慰霊碑設置箇所付近は、後世、通称モリモト（地域名として用いる時はカタカナ表示と

する）と地元（大滝）の方から呼称されるようになっている。このモリモト地域では、大滝の方々（数人）が炭焼きをおこなっていた場所でもある（写真-4④参照）。

旧慰霊碑設置箇所のとおりは潤れ沢になっているけれども、その少し奥に樗の大木があったそうで、その近くが森元巡査の発見された場所と伝えられていたという。かつては、その場所に木碑が建てられていたという伝承があるが、大滝会によれば、確かな記憶ではないがそのようなものがあつたかも知れないとのことである。

木炭の生産は、戦前戦後を通じ大滝集落の主要な生業の一つで製炭組合を設立していて、昭和 33 年には生産者戸数 21 戸（昭和 35 年世帯数 32）で、慰霊碑の建立された昭和 35 年という木炭の需要もいまだ多く、昭和 32 年が大滝における木炭生産の最盛期であった。この年昭和 35 年には、優良製炭組合として全国生産者大会において大滝木炭組合が表彰されている（前年には知事表彰受賞）。しかし、その頃からエネルギー革命により石油に取って代わられつつあり製炭業は衰退し始めていて、昭和 43 年 6 月には大滝木炭組合は解散している（『わが大滝の記録』）。

ともあれ、当時の中野村の有力産業として、杉ノ平や円部にあった木炭組合も含めて協力するよう呼びかけられたものであろう。慰霊碑建立に協力したということについては現在の大会の方々には記憶がないということである。

大滝集落と森元源吾巡査

大滝集落と森元巡査遭難の因縁について記しておく。巡査の遭難した 1 月 5 日の足どりは、関係筋によると当時大滝集落の最西端に位置する宮内屋旅館（高野幸吉方・女将：タケさん）で途切れていたという。夕方 5 時過ぎに立ち寄ったあと消息を絶っている。伝えられるところによれば、森元巡査は勤務先の二ツ小屋隧道福島側にあった福島警察署飯坂分署二ツ小屋巡査駐在所への行き帰りには必ず宮内屋旅館に立ち寄って休んでいったという。宮内屋と駐在所の間には人家は一軒もないので立ち寄るのは自然であろう。当日も立ち寄ったのであるが、天候が暴風雪なので駐在所へは戻らないよう、婆ちゃん（女将のタケさんを指すのであろう）から引き留められたけれども、その制止を振り切り駐在所へ戻って行ったということである。この後、行方不明となり遭難

したものと思われる。一方当日、宮内屋には立ち寄りなかったという伝承もある（高野家等関係者の証言）。

なお遭難経緯については後述するが、森元巡査は遭難前日の1月4日に「囚人を護送」していて、それは大滝集落関係者による殺傷事件の被疑者を飯坂分署へ護送したものであると伝えられている。この殉職碑は、その犠牲者の鎮魂をも兼ねたものとも云われている（「万世大路・大滝宿の住宅と生活」「日本の廃道」2013年9月91号所収、byTUKA「街道Web」）。

中野鉦山

中野鉦山及び長老沢鉦山とも、旧中野村（昭和30年3月飯坂町と合併、飯坂町中野となる）を代表する当時の地元有力企業として協力を求められたものであろう。いずれも、森元巡査遭難事件とは何の関係もないと思われる。

両鉦山ともそうであるが、鉦山関連の資料はほとんど入手できていないので、今回の寄付者協力者名簿にその名前だけではあるが確認できたのは大袈裟ではあるが発見である。

『本邦鉦業の趨勢』（通商産業大臣官房調査統計部編、過去毎年発行）によれば、中野鉦山は昭和39年、長老沢鉦山は昭和46年頃に閉山しているけれども、昭和35年頃は順調に稼行（^{かこう} 鉦物を産出すること、操業）していたと思われる。

中野鉦山鉦床の一つは、大桁地区旧万世大路と併行して流下する小川の川向（小川滝付近、北側）にあったと思われる。明治41年最初の5万分の1地形図には当該箇所には鉦山（採礦地）地図記号があり、その字名も「銅」である。中野鉦山の歴史は古く、明治天皇の東北巡幸（帰路、明治14年10月）の際の作られた案内資料によれば、江戸時代（文化2年〔1805年〕）に発見されたという。また、中野鉦山付近を御通輦（^{ごつうりん} 天皇陛下がお通りになれること）の明治14年10月時点では閉山になっていたようである（『明治9年明治14年明治天皇御巡幸録』福島縣教育會 昭和11年10月、所収『福島縣輦道驛村略記』）。しかし明治年間中には、鉦山は再開されているようだ。その時期は詳らかでないけれども、森元巡査が巡回で訪れていた可能性もあながち否定出来ないと思う【参考写真-3②、4①】。

ところで、明治の採鉦会社（者）とは別会社となる昭

和の中野鉦山については、中野大桁地区において事務所等の鉦山関連施設或いは職員宿舍跡を確認しており、その小川対岸（左岸）に零番坑（^{れいばんこう}）と通称された通洞坑（^{つうどうこう}）坑口跡を確認している。

（※）通洞坑とは山麓または山腹からほぼ水平に掘削された坑道で主要な運搬坑道のことをいう。排水、通気にも使用される。

また、中野鉦山職員の子弟は大滝分校に通学していたようで、大滝旧住民にはその同級生という方も少なくない。

長老沢鉦山

次に長老沢鉦山であるが、国道13号中野第2トンネルの米沢側の大鍋橋の手前、旧大滝ドライブイン付近（旧国道両側）に事務所等鉦山関係の施設があったようである。鉦山そのものは長老沢地区や朴沢地区にあったようだ【参考写真-3②、4②】。しかし、中野鉦山と異なり鉦山跡や施設跡などは確認できていない。この長老沢鉦山については、^{おおたから} 大宝鉦業（株）（本社秋田市）が経営していたことから地元の人達は普通「大宝（鉦山）」と言っていたという。大滝旧住民で従業員であった方も、「長老沢鉦山」という名称は、当時聞いたこともないと言っておられた。筆者らも、最近まで知らなかったのであるが、『福島県鑛産誌』（昭和40年3月、福島県企画開発部開発課）により正式名称が長老沢鉦山であることが分かったものである。寄附名簿といういわば公式文書ということで、正式名称「長老沢鉦山」が用いられたものと思われる。名称だけであるけれども長老沢鉦山が確認できたことは収穫である。

なお、中野鉦山・長老沢鉦山（大宝鉦山）について若干の解説を当大滝会HPの下記サイトに記しておいたので興味ある向きにはご覧下さい。

- ・「青葉学園跡探索記、蛇体道・青葉谷遠し」

【別添解説資料】

「大滝周辺の鉦山と青葉学園の創設」

<https://ootaki.xsrv.jp/aobakaisetsu.pdf>

(5~20頁)

- ・速報「中野鉦山坑道（零番坑）に到達」

<https://ootaki.xsrv.jp/nakanokouzan0bankou.pdf>

丸中白土株式会社

会社HP（最近更新されていない）によると、大正8年

2月の創立で、白土砒物の採掘精製販売、ゼオライトなどの製品を販売している会社のようなものである。古くから旧中野村の有力企業であったようで、昭和35年9月最初の慰霊碑建立時と昭和61年移転の際の2回に亘って協力されている。森元巡查遭難事件との関連はやはりないであろう。

本件とは直接関係のないことであるけれども、当該会社関連の話題として幾つか紹介したい。詳細は失念しているが昭和41年頃の国道13号栗子国道改良工事(飯坂道路改良工事)により会社敷地が分断されることにともない国道横断橋(白土橋)が架設されている。

次に戦前における別の話題である。国道5号(後の国道13号)万世大路「昭和の大改修(昭和8年4月～昭和12年3月)」は当時の内務省仙台土木出張所福島国道改良事務所による直営工事であったが、内務省土木工学会計係(人夫総代)賃金支払いの責任者を務めた紺野倉治氏は当該会社の社長さんと誰かに聞いた記憶がある。当時内務省の作業員賃金は、地元市町村長の推薦した賃金立替支払者(人夫総代と称す)によりおこなわれていたという。

関連して「昭和の大改修」(万世大路改築工事)の竣功式は昭和12年初冬に挙行され、この時に山形県の万世村と福島県の中野村・飯坂町合同の祝賀会が開催されたそうであるが、人夫総代紺野倉治氏がその費用全額を負担されたということである(『福島県直轄国道改修史』)。

なお前にも触れているが慰霊碑は、昭和61年12月、新沢橋付近の現在地に移転されており、その時の協力者として当該会社名が説明碑に刻まれている。警察関係者を除くと昭和35年当初の石碑設置協力者の中で、移設の際にも協力者になっているのは丸中白土株式会社が唯一である。

3. 森元巡查遭難の経緯

詳細は前述の通り前回報文を参照して頂きたいが概要を記しておく。

森元巡查は、福島警察署飯坂分署二ツ小屋巡查駐在所(二ツ小屋隧道福島側に所在)に当時勤務していた。明治21年(1888年)1月4日被疑者を護送して飯坂分署に来署、翌5日の午後1時に出署し帰任の途についた。

しかし、午後5時30分頃大滝にある宮内屋旅館(高野幸吉方)へ立ち寄ったのを最後に行方不明となった。当日は猛吹雪で遭難した可能性があるということで、大規模な捜索がおこなわれたが2m近い積雪に阻まれ発見することはできなかった。5月になってから石小屋地内の山中で(旧慰霊碑設置箇所付近)、雪の下に横たわる森元巡查の遺体が発見された。

旧慰霊碑が建つまでは、森元巡查の遺体発見場所に木碑を建立し、供養していたそうであるが、昭和35年(1960年)9月26日、遭難現場の近くの旧万世大路脇に、慰霊碑「殉職警察官之碑」が建立されたものである(現福島市飯坂町中野字石小屋地内)。

慰霊碑には次のように刻されている(写真-2①②)。

【石碑前面・題字】

殉職警察官之碑

僧侶 龍山書

【石碑背面・碑文】

飯坂警察分署森元源吾巡查

氏は嘉永元年七月西白河郡白河町森元万太氏の男として生る、明治八年十一月福島県四等巡查を拜命同十九年十一月飯坂分署勤務となり二ツ小屋註在所に服務す。同二十一年一月四日囚人を護送して飯坂分署に出張、翌五日帰任の途中信夫郡中野村字石小屋地内山中に於いて六尺を越ゆる猛雪に遭難、凡ゆる捜査も効なく五月一日に至り死体として発見さる。享年四十一歳、因みに森元家は代々白河藩の劔道指南をして居り、先代森元一刀太は小野派一刀流の達人であった。

昭和三十五年

九月二十六日建之 発起人 中野地区防犯協会

(体裁等原文通り、ルビ筆者)



(写真-2①) 殉職警察官之碑
前面 H250407



(写真-2②) 殉職警察官之碑
背面

なお、昭和61年(1986年)12月に慰霊碑は現在地に移転されている。移転説明碑文によれば、旧国道13号の廃道後旧設置場所は雑草雑木に埋もれ、献花供養等が困難になってきた。そのため飯坂町防犯協会連合会や中野地区防犯協会などが「殉職碑移設準備委員会」を昭和61年11月に立ち上げ、地元有力者の方の協力を得て移転したということである。

【参考 遭難関連】

旧国道13号(万世大路)の新沢橋からオサ沢付近まで約3kmは、「昭和の七曲(坂)」と筆者等が勝手に命名しているけれども、7段のヘアピンカーブとなっている。この内3代目新沢橋へ続く1段目と2段目の道路は、昭和の大改修(*)の際に新設されたバイパスである。2号カーブからオサ沢先までは、初代の万世大路を拡幅して整備したものである。従って、この区間は、初代万世大路を彷彿とさせる所と考えられる。この区間は、初代万世大路では「大回り」と称していたようである(【参考写真-3①】「福島県下中野新道御通章沿道地図」等参照)。

森元巡査が遭難したのは、6号カーブから100mほど米沢側へ行った所であるが、その場所の山側を見ると、二ツ小屋巡査駐在所(二ツ小屋隧道福島側に所在)に戻るために、本来上るべきであったこの先500m程のところの「七曲(坂)」の上り口と大変に似た雰囲気となっている。勿論当時と現在ではその林相も異なると思われるので、断定的なことはいえないけれども筆者の感想である。遭難当日は、猛吹雪の上2m近い積雪があったと伝えられていることから、なれた道であったとはいえ趣意書に記されているように進路を誤ったものであろう。

(写真-3①~③)

※「昭和の大改修」

明治時代に開通した(M14[1881].10.3)初代万世大路を、それまでの荷馬車通行道路から自動車も通行できるように改修した事業を指す。本工事は、当時の内務省仙台北出張所福島国道改良事務所(現国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所)において直営工事として施工された。工事期間は昭和8年[1933年]4月から同12年3月までの4箇年、総事業費678千円。その「昭和の大改修」という事業名称は当時の正式名称でもなければ、また通称としても用いられたという事実はなく、筆者らが最近になって便宜的に使用しているものである(正式事業名は「5号国道改良工事」[万世大路改築工事])。



(写真-3①) 「殉職警察官之碑」(慰霊碑)跡にて

(山口屋散人様提供)



(写真-3②) 「殉職警察官之碑」(慰霊碑)跡にて

左から中屋旅館4代目渡辺正義大滝会副会長、
宮内屋旅館4代目弟伊藤弘治同理事、
木村義吉同会長、筆者同特別会員 H241124。

(肩書は当時)



(写真-3③) ニツ小屋隧道 福島側坑口付近

左側が駐在所跡と伝わる。

右側石碑は御駐蹕碑「鳳駕駐蹕之蹟」 H301110

おわりに 今回、かねて望んでいた冬(暖冬でしたが)の遭難現場付近を見ることができました。案内して頂いた山口屋散人様、編集に協力頂いたHP管理人紺野文英様に御礼を申し上げます。

【慰靈碑関連写真集】

〔当初設置箇所モリモト付近〕



(写真-4①) 「昭和の七曲坂」第7段目道路、米沢側から第6号カーブを望む。右奥は5段目道路。



(写真-4④) モリモト付近全景、左側殉職碑跡、右水無沢(仮称)この上流で遺体発見と伝わる。



(写真-4②) 第6号カーブ付近から米沢側(写真奥モリモト)を望む。



(写真-5①) 殉職警察官之碑跡(階段)



(写真-4③) 福島側からモリモト付近を望む。



(写真-5②) 殉職警察官之碑跡(台座)

〔移転先 第3代新沢橋福島側付近〕



(写真-6①) 米沢側からモリモト付近(階段)を望む。



(写真-7①) 移転された「殉職警察官之碑」(慰霊碑)。右側は昭和61年9月26日移転の説明碑(協力者名)。



(写真-6②) モリモト付近から米沢側(オサ沢)を望む。



(写真-7②) 慰霊碑を米沢側から望む。
写真奥は「昭和の大改修」第3代新沢橋。



(写真-6③) 米沢側からモリモト付近を望む。この辺りは初代万世大路を拡幅整備したところと考えられる。



(写真-7③) 慰霊碑を福島側から望む。
写真奥は「昭和の大改修」・「昭和の七曲」1段目道路。左側は国道からの取付坂路。



【参考写真-1①】旧万世大路昭和の大改修「石小屋～ニツ小屋区間」(「昭和の七曲」(勝手に命名)1段目～7段目途中)と現国道13号(栗子ハイウェイ、大滝第2トンネル～東栗子トンネル間)「月報東北地建」昭和41年6月号より作成



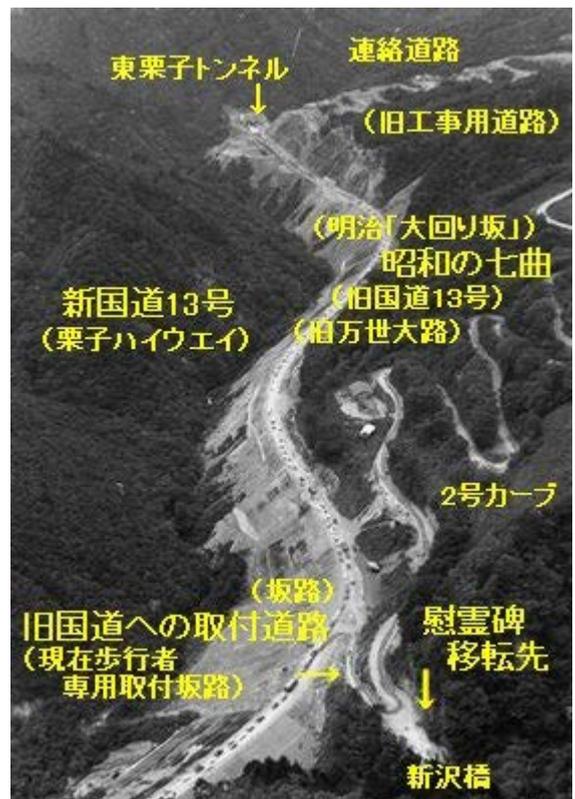
【参考写真-1②】旧万世大路・昭和の大改修「石小屋～ニツ小屋区間」(「昭和の七曲」(勝手に命名)5段目途中～7段目全景)とニツ小屋隧道前ヘアピン道路。手前旧大滝運搬路全景(現在連絡道路)



【参考写真-2①】 新国道13号(栗子ハイウェイ)と旧国道13号「昭和の七曲り」殉職警察官之碑(慰霊碑)旧設置箇所と移転先。
栗子ハイウェイ開通式当日(昭和41年5月29日) 「株式会社川島印刷提供」(米沢商工得会議所)

【参考写真-2②】 →

新国道13号(栗子ハイウェイ)と旧国道「昭和の七曲り」。
殉職警察官之碑(慰霊碑)移設箇所と旧国道への取付道路。
栗子ハイウェイ開通式当日(昭和41年5月29日)
「株式会社川島印刷提供」(米沢商工得会議所)





【参考写真-3①】 明治期初代万世大路(その1) 殉職警察官之碑(慰霊碑)・森元巡査遭難現場付近関連図
 宮内屋旅館・大回り坂・七曲り坂・二ツ小屋隧道 明治14年『福島縣下中野新道御通撃沿道地圖』一部加筆
 (福島県立図書館所蔵)



【参考写真-3②】 明治期・初代万世大路(その2) 殉職警察官之碑(慰霊碑)・森元巡査遭難現場付近関連図
 中野鉾山・長老沢(大宝)鉾山 明治14『福島縣下中野新道御通撃沿道地圖』一部加筆
 (福島県立図書館所蔵)

【殉職警察官之碑関連参考図】

